

人権さんだ

8 月号

令和4年(2022)

No.521

お づる よ
折り鶴に寄せる平和への思い

《問い合わせ》
共生社会部福祉共生室人権共生推進課
TEL: 559-5148 FAX: 563-7776
E-mail: jinken_u@city.sanda.lg.jp



広島市平和記念公園にある「原爆の子の像」

戦後77年間、私たちは平和を守り、世界で唯一の被爆国として核兵器のない社会の実現を目指して取り組んできました。しかし、世界では現在もまだ戦争や紛争が続いている地域があります。

こうしたことに対し、私たちは一体何ができるのでしようか？戦後生まれの人口が全体の8割を超えるなかで、若い世代に平和の意味や戦争の悲惨さを語りついでいくことが大切です。今号では、広島市の平和記念公園で折り鶴に思いを託す子どもたちの姿を通して、平和について考えてみましょう。



全国から広島に寄せられる折り鶴、三田市の小野小学校の作品も奉納されました。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

禎子の折り鶴

広島市の平和記念公園に、何千、何万もの折り鶴が手向けられている少女をモデルにした像があります。1958年に建立された「原爆の子の像」です。



平和セレモニーを行う子どもたち

この像のモデルになっている「佐々木禎子」さんの話は今や全世界に語り継がれるようになってきました。

禎子さんは、広島に原爆が投下された日、放射能を帯びた黒い雨（※1）に打たれ被ばくしました。

10年後、白血病を発症した禎子さんは、徐々に症状が悪化し、病院内で顔見知りになった少女が同じ白血病で亡くなると、「うちもあとして死ぬんじゃないか」とポツリと呟いたといわれています。

そんな禎子さんの生きる支えとなったのが、折り鶴でした。鶴を折れば元気になれる、そう願って禎子さんは折り鶴を折り続けましたが、願いも空しく12歳でこの世を去ってしまいました。

※1 黒い雨とは、原爆の爆発によって巻き上げられた粉塵や煤により黒くなったタール状の雨のことです。

折り鶴を奉納

「コロナ禍」の中で学校の修学旅行も大きく様変わりしましたが、市内では感染対策に十分に注意を払いながら、平和学習を取り入れた修学旅行を計画・実施している学校があります。

小野小学校では、事前学習で折り鶴のことを学び、自分たちも「原爆の子の像」を訪れて折り鶴を奉納しようと計画を立てました。

6年生7名は、自分たちが学習したことを全校児童に伝えようと集会を開きました。集会では、自分たちが調べた「禎子さんの折り鶴」の話全校生に紹介し、「小野小のみんなで折り鶴を折って平和を願う気持ちを伝えたい。修学旅行では6年生が代表で届けるのでよろしく願います。」と訴えました。当日は志手原小学校の6年生と共に、広島市内で自分たちが考えた「平和宣言」を読みあげる平和セレモニーをしました。

また八景中学校は、雨天のため長崎市内の原爆遺構をバスの中から見学した後、長崎原爆資料館では平和を祈るセレモニーを行い千羽鶴を奉納しました。



千羽鶴を奉納する八景中学校の生徒

2羽の折り鶴

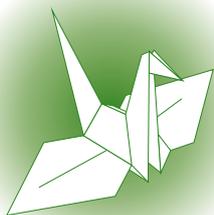
広島平和記念資料館の一角に、ピンクと青の千代紙を使い、丁寧に折られた2羽の折り鶴が展示されています。

これらは、2016年5月27日、アメリカの元大統領、オバマ氏がこの資料館（原爆資料館）を訪れた際、自ら折った折り鶴のうちの2羽を出迎えた小・中学生2人に手渡し、残りの2羽を直筆のメッセージとともに、広島に置いていったものです。

オバマ氏がなぜ自ら折り鶴を折って広島に届けたのでしょうか？

オバマ氏は、広島での演説の中でその思いを次のように語りました。「なぜ、私たちはここ、広島を訪れるのでしょうか？ 私たちは、そう遠くない過去にあった恐ろしい力に思いをはせるためにここに来ます。10万人を超す大人や子どもたち、何千人もの朝鮮半島出身者、十数人のアメリカ人捕虜を含む死者を追悼するために訪れるのです。彼らの魂が私たちに語りかけます。私たちが何者なのか、これからどのような存在になりえるのかをよく考えるように求めているのです。」

オバマ氏は広島市の禎子さんの折り鶴の話に思いを重ね、世界平和へのメッセージを私たちに伝えました。



編集後記

市は平成元年3月に「非核平和都市宣言」を行い、平和な社会の実現に向けた取り組みを進めています。核戦争を防止し、すべての核兵器を廃絶する取り組みをこれからも継続していく必要があります。

「折り鶴」の取り組みは、戦争で犠牲になった多くの人たちへの慰霊であり、平和を願う思いをお互いに共有し、その思いを広げようという行動だと思えます。その行動が多くの人の心を動かしてきました。オバマ氏や多くの市民が折り鶴に込めた思いを大切に受け止め、戦争のない、平和な世界を作るための取り組みをこれからも続けていかなければなりません。

新型コロナウイルス感染症の感染者が増加しています。これまでと同様に、基本的な感染予防対策を続けていく必要があります。長期化するコロナ禍の中で私たちの心にも疲れがでてきます。そのしんどさからコロナ差別といわれるような、心ない言葉や言動が生まれます。新型コロナウイルス感染症について正しく理解し、人を傷つける言動をなくしましょう。

人権の花運動展開中!

「人権の花運動」は、子どもたちが花の苗を植え、育てることを通じて、生命の尊さを実感し、人権尊重の心を育て情操をより豊かなものにするのを目的に市内の保育所、保育園で実施しています。三田保育所、さんだのもり保育園、三田こぼと保育園で子どもたちが人権擁護委員と一緒に赤いサルビアの苗を植えました。



私のまちの人権擁護委員

人権擁護委員制度は、昭和24年6月1日の人権擁護委員法の施行により基本的な人権を擁護する制度として整備されました。人権擁護委員は、法務大臣が委嘱する民間のボランティアであり、特別職の国家公務員です。三田市においては現在8名の委員が活躍中です。

市民

企画講座

映画「みんなの学校」上映会inさんだ

日時：令和4年9月19日（月曜日・祝日）
 午前の部（字幕あり）10時～12時（受け付けは9時30分～）
 午後の部（字幕なし）13時～15時（受け付けは12時30分～）
 場所：三田市総合福祉保健センター（多目的ホール）
 参加費：大人1人300円（定員150人）
 託児若干名あります（無料）ご相談ください。
 〈お問い合わせ・お申し込みはこちら〉 nobijulimama@gmail.com

三田市人権を考える会事務局（人権共生推進課内）
 Tel 079-559-5148 Fax 079-563-7776

主催：のびジュリ
 後援：三田市 三田市人権を考える会（事務局人権共生推進課）
 三田市教育委員会
 協賛：一般財団法人フクオカ里子基金

「戦争と三田の暮らし」～平和を願って～

当時の生活（衣料、食事、教育など）が分かる道具や行事などを写真と現物で展示します。

場所 三田ふるさと学習館
 期間 7月23日（土）～8月31日（水）
 休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合、翌平日）
 時間 10時～17時

「平和について考える、夏」本の展示

平和関連の本を展示しています（貸し出しもできます）

場所 三田市立図書館 本館
 （一般展示コーナー）
 期間 8月1日（月）～8月31日（水）
 時間 9時～20時

令和3年度
 人権標語・ポスター受賞作品



三田小学校 6年（前年度）
 川岸 心桜さん

がんばろう
 マスクの中は
 えがおだよ
 富士小学校3年（前年度）
 永井 琉翔さん

くらしの人権相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063
 月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談（予約）

TEL 559-5062 FAX 559-5063
 月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）
 ※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員による定例人権相談（予約）

TEL 559-5148 FAX 563-7776
 《次回相談日》8月25日（木）13時～16時

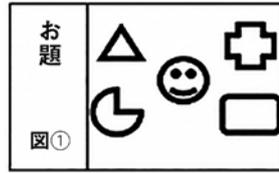
思いを伝えるために

三田市立長坂中学校教職員 森口 直弥さん

伝言ゲームを通して

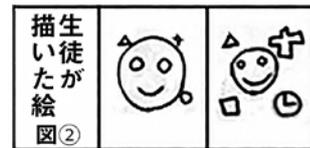
昨年、1年生の人権学習として、「伝言ゲーム」を行いました。目的は、「伝えることの難しさを実感すること」と、「相手にどう伝えればよいのか考えること」でした。

「伝言ゲーム」では、お題となる絵（図①参照）の内容を言葉だけで相手に伝えます。どの生徒も一生懸命に相手に伝えようとしてい



ましたが、なかなか自分のイメージが相手に伝わりません。「顔の左上に三角がある。」と伝えますが、それが顔のすぐ上

なのか、顔から離れたところの上なのか、伝え手と聞き手のイメージが異なり、それが伝言されるたびに元の絵からはどんどん離れていくグループもありました。（図②参照）



今回はあくまでもゲームですが、伝え方の難しさについて、実生活に置き換えてみても当てはまる

ことがあつたのでは？と生徒に問うてみました。生徒からは、「確かにあるかも」という反応がありました。たとえば、「○○は△△らしいで」という噂話は、当事者から直接聞いた話ではない

令和3年度
ラブピース4コマまんが受賞作品

「自分のきもちをつたえよう」



ゆりのき台小学校3年（前年度）
のむらみこと 野村 美采さん

め、正しいことが伝わっていないことも多く、「本当にそうなのか？」と疑うことも必要なのではないかと意見もありました。

授業後の生徒の感想には、「捉え方は人それぞれだから相手が考えていることを言葉だけで理解するのは難しいと感じた。」「言葉だけでなくジェスチャーを使って伝えたり、何回も話をしたりすることが大切だと思った。」「伝える人が多いほど、お題の絵と変わった内容がありました。」

伝えるために大切なこと

私自身、相手に自分の思いや考えを伝えるとき、しっかりと相手に思いが伝わったと思ってい

ても、伝わり方が不十分だったり、異なる受け取り方をされていたり、といった経験があります。また、人伝いに聞いた話と直接その人と会って話をする中で感じたことが異なることもあります。

話をすること。そして、一度だけのやりとりではなく、何度も話を重ねる中で、自分の考えや思いを伝えていくことが大切なのではないかと思えます。

こんな時代だからこそ

近年、スマートフォンやSNSの普及に伴い、SNSや無料通話アプリなどインターネット上で、コミュニケーションをとることが増えてきました。メールやSNSを使っているやり取りは、相手とのやりとりがいつでもできる等、便利な反面、文字だけのやりとりでは、なかなか伝え手の思いが伝わりきらないことも多いように感じます。

またコロナ禍の中、マスクを取った生徒の顔を見て、「この生徒はこんな表情をしていたんだ」と驚くことがありました。生徒の顔をきちんと認識することさえできていないのかと改めて気付かされました。

相手の表情が見えない、もしくは、分かりづらい、そんな時代だからこそ、相手と直接会って話をする機会を大切にしながら、自分の考えを伝えたり、相手の思いを組み取ったりしていきたいと思えます。